

さんりんしゃ

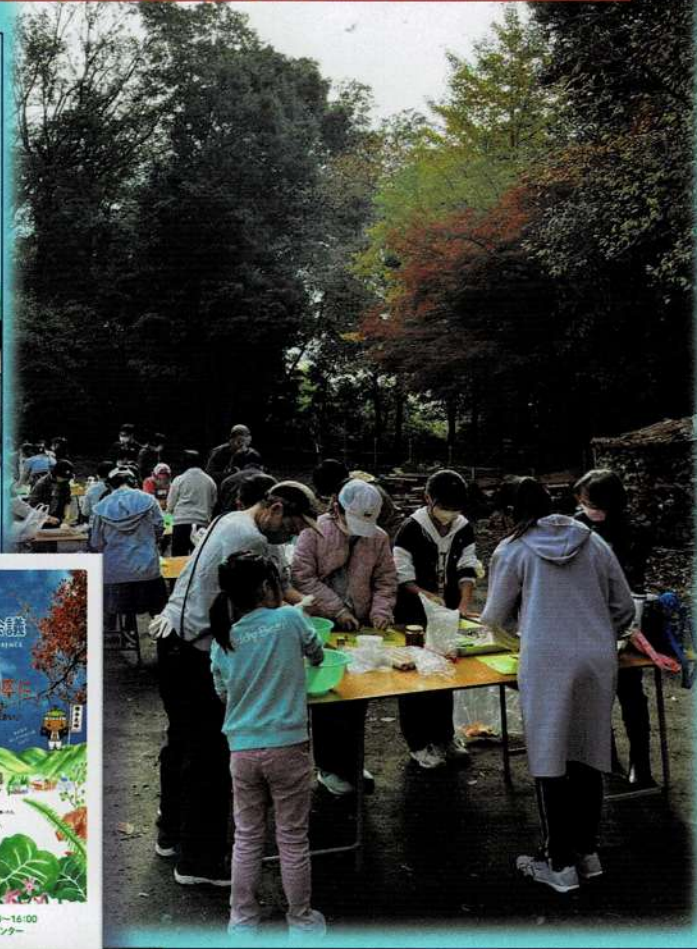
発行 麻生区地域教育会議
発行日 2024年3月1日
事務局 川崎市麻生市民館内
麻生区万福寺1-5-2
TEL : 044-951-1300
FAX : 044-951-1650

令和5年度の活動を振り返って

青空子ども会議

麻生区を「^{あす}明日を」区に
ふるさと麻生の未来を考えようをテーマに開催

11月23日、黒川青少年野外活動センターで「青空子ども会議」が開催されました。雨だった前年と違って変わって文字通り「青空」のもとの一日になりました。小学生、中学生合わせて30人が参加して、午前中はグループに分かれてピザづくり、一緒に食べて、メンバー同士打ち解けてきました。午後からは子ども会議です。



今回のテーマは「麻生区を「明日(あす)を」区に」。麻生区の未来をみんなで考えました。子どもたちは真剣に意見やアイデアを出し合い、グループごとに発表。最後にグループリーダーの中学生たちがまとめを発表しました。最後に山本区長から発表に対するコメントをいただき、会議は終了。区長は子どもたちの提案を直接聞くことができよかったとおっしゃっていました。(渡辺)



子ども会議



みんなの発表を聞いてからもう一度まとめ中



真剣に話を聞く子どもたち

麻生区の子ども会議に注目!!

**あなたもいっしょに
子ども会議に
参加しましょう
待っています!**

子ども会議グループ

前年の経験もあり、当日のプログラムはスムーズに進行でき、子どもたちも積極的に参加してくれました。アンケートを見ると、参加者の満足度も高かったようです。今回は定員50名で抽選という方法を取りましたが、応募は40名、風邪などもあり当日の参加は30名でした。中学生は、はるひ野中学校の生徒が参加してくれたのですが、他校の参加がなかったのが残念でした。次回は募集方法や当日の日程の検討とともに、小、中学校や中学校区地域教育会議にも働きかけて、多くの参加を呼びかけたいと思います。また1回目、2回目に参加してくれた子どもたちには、次回の企画から参加してもらいたいと考えています。(渡辺)

提言

☆自然を生かしたイベント
↳ 森の中で遊ぶ
自然のものでの作品づくり
生き物を大切に
☆住みやすい街づくり
↳ 1人1人思いやりやイリ合いを大切に
☆安全な町づくり
↳ 110番の家
交通安全教室
街灯を点検
防災訓練

最後の提言は各班のリーダー(中学生)が集まって、各グループの意見をまとめてくれました。



かわいいイラストも描いてくれました

参加の子ども達の感想

- ・知らない人と仲良くなって、ピザを作ったり、麻生区の未来を考えることができてよかった。
- ・楽しかった。また来たいです!
- ・年上の人と交流できて、お手本にできた。
- ・他学年・他の学校とも交流を深められて良かった。
- ・ピザ作りや話し合いが楽しかった。 ・ピザがうまかった。
- ・またみんなでピザを作って、麻生区について考えたい。
- ・区長さんに会えてうれしかった。
- ・提言が区長に伝えられて良かった。

おとな会議

昨年開催された「青空子ども会議」。その際に出された子どもたちの意見・考え・提案等を受けて、「おとなも考えてみよう!」と、麻生区地域教育会議委員の中でおとな会議を開催しました。おとな会議では、グループディスカッションを行い、各グループの話し合い内容を共有しました。(谷川)

第1回 おとな会議 9月13日(水)

2022年11月23日開催の「青空こども会議」テーマ「麻生区の自然を考えよう」を受けて

第2回 おとな会議 2月14日(水)

2023年11月23日開催の「青空子ども会議」

テーマ「麻生区を『明日を』区に」～ふるさと麻生の未来を考えよう～「提言」を受けて



寺子屋交流会

1月25日（木）に麻生市民館大会議室にて、麻生区内の寺子屋交流会を開催しました。教育委員会地域教育推進課の担当者や、10の寺子屋から24名のコーディネーター・寺子屋先生等に参加いただきました。各寺子屋での取組の紹介からはじまり、お楽しみタイムでの題材さがし、GIGA端末の取り扱い、子どもたちへの接し方、寺子屋合同プロジェクトの紹介など、幅広い内容について情報交換を行いました。今年は、市民館と地域教育会議の協同活動として取り組みました。（江上）



交流会に参加した寺子屋の取組紹介

名称	登録児童生徒数	取組み
西生田	81	2部制で実施。おもしろ学びが好評。
くりぎだい	53	どの児童も喜んで帰れるように配慮。
わかたけ	18	故郷を大事に思う心を育て、防災訓練を実施。
ゆりっ子	27	児童、先生とも良かったと思える場に。
かきお	24	先生がフルート演奏。法律教室を実施。
おかがみ	38	農業・自然体験。和光大学との連携。
あさお	57	次年度に向けて寺子屋紹介イベントを実施。
柿生中	12	安心できる居場所として、生徒は熱心に学習。
はるひ野	23	先生でなくサポーターとして一緒に楽しむ。
南ゆり	準備中	宇宙教室、おもちゃ作りイベントを実施。



寺子屋交流会に参加して 寺子屋かきお・林建さん

設立して長い寺子屋さんやこれからの寺子屋さんなどの紹介・質問の中で、ウチの寺子屋では、諸問題をこんな風に解決しました。や、こんなことをしています。というお話を聞きながら、なるほど！自校寺子屋で活かそう！そんなお話を聞けるいい機会になりました。中でも土曜体験教室に関しては、各寺子屋さんの地域性を活かしたり、寺子屋先生の特技を活かしたり、参考になる事ばかりでした。

交流会の後に放課後交流会として数名で酒を交えて更に話しが盛り上がり、地域特有の体験活動のレシピや講師の方など麻生区独自の体験活動リストなどをシェア出来たら、自校寺子屋体験活動も充実出来るだろうね。など、アイディアは尽きませんでした。元気に笑顔で楽しく前を向いてエネルギーな寺子屋運営をする為に、これからもどんどん情報交換会、放課後交流会を重ねられたらと思います。



のようす

第2回のようす



グループディスカッションより

- ・子どもたちの様々な意見・要望を検証してみると、大人はすでに改善されていると思っていることが子どもたちは未だ問題視していることなどもあり、あらためて大人と子どもの目線に差があることに気づかされた。
- ・麻生区の自然を活かしたイベントを開催できないか。
- ・自然は麻生区の財産、自然を活かした活動、イベント、作品展も開催しては？
- ・行政だけでなく地教で動いてタイムリーに動いてイベントを。
- ・学校と連携し防災訓練の参加方法を周知しては？
- ・未整備の地区を遊べる場所にできないか？
- ・多世代交流、小中高の連携、地域のイベントでの人とのつながりを
- ・いろいろな団体、地域のおとな、子どもとの交流ができるものを。
- ・こども110番は地域ごとに温度差があり、ルール作りが必要。

中学校区交流会

2月7日、麻生市民館にて今年度2回目の交流会を行ないました。前回（9/21）の交流会以降の各中学校区での進捗状況の報告があり、地域の特性を生かした以下の取組み情報を共有しました。



- ・コロナ禍前に行っていた事業の復活ができた。（王禅寺、長沢、柿生、はるひの）
- ・未だに完全休止状態で次年度に向けて再開を目指している中で、行政区が企画した青空こども会議の手伝いをした。（白鳥）
- ・新たにZOOMを併用した取組みをした。（金程）等々。

学校と地域の関係、地域行事との兼ね合い、学校教職員の働き方改革で、状況変化が著しく多くの制約がある中で、地域教育会議の事業の計画と実施には調整が必要になってきています。

川崎市が先駆的に学校と地域と保護者の協力を図ってきた取組みが、地域学校協働本部に移行していく中で、従前の地域教育会議とコミュニティ・スクール（学校運営協議会）という両輪が有効に、未来に向けて展開していく事ができるのか、しばらくは定期的（年2回）にこの交流会を開催します。地域性を考慮しながらも目指す方向に推進していきたいと考えています。（名古屋）

教育を語るつどいで ZOOMを使って 金程中学校区

今年度よりZOOM時間無制限のアカウントを行政区で設け、区内各中学校区でも利用可能となりました。2月3日に金程中学校区の教育を語るつどいとネットワーク会議では、ハイブリッド形式で「子どもの権利に関する条例について」と情報交換が行われました。今後も対面での会議だけでなく効果的に活用していただけるよう期待しています。



令和5年度を振り返って

議長 井上 俊夫

今期は「ふるさと麻生の未来を考える」を重点方針として、子ども会議・教育を語るつどい・中学校区交流会を実施してきました。各グループで活発な議論を重ね、PDCAのサークルをうまく回して、改善を加えながら実施できたと考えています。

こども会議は、小・中学生30名の参加があり黒川青少年野外活動センターで実施しました。今回はグループで出された意見やアイデアを発表後、リーダーの中学生が集まり、まとめを行いました。最後に山本麻生区長にコメントをいただきました。次回への課題としては、中学生の参加が増えるよう募集方法や内容を工夫することと、企画に参加してくれる子どもたちを募りたいと考えています。

おとな会議は、子ども会議で出された意見や提言について、「おとなも考えてみよう」をテーマとし

て、2回実施しました。1回目は昨年、2回目は今年の子ども会議を受けての会議で、グループに分かれて意見を出し合い共有しました。来年度は、実施のタイミングや方法を検討して、進められればと思います。

中学校区の交流会は、いま最も大きな変革期に直面している各中学校区の問題点や課題を話し合い、対策や進捗状況を共有する重要な会と考えています。地域学校協働本部への移行と学校運営協議会が全校スタートする再来年度までには、地域・学校・保護者の連携を更に良くして、車の両輪のように動いていく必要があります。各校のこれまでの活動と地域性を活かした「地域教育会議」が、子どもたちの「学びと健やかな育ち」に役立つような活動にできればと考えています。

編集後記

今年度、子どもたちとともに過ごす場面で何度も驚かされた。自ら挨拶し周囲に声をかけ、すぐに打ち解ける。自分の意見をはっきりと話し、人の意見に耳を傾け、多様な考えを受け入れる。アクティブ・ラーニング、インクルージョン、そしてSDG's…。それらを理解し実践する彼らの姿から、自分を省みた。彼らとともに未来を見つめ、何ができるか、次年度も本会の活動の中でさらに学び、できることから取り組んでいきたい。（徳田）